ねっこだより



湖南市立岩根小学校
家庭学習通信

No.7
2026．11．6

ふりかえりを大切にしています。
～運動会のがんばりをふりかえりました～

運動会などの大きな行事は、めあてにむかって様々な活動があり、計画的に時間をかけて練習していきます。そしてたくさんの人に見ていただく機会もあり、当日の結果だけでなく、それまでの時間をふりかえり自分の成長を意識できる絶好のチャンスです。特に高学年児童は、自分だけでなく全校の動きを考えながら過ごすことで、大きく成長し、それを自覚できた児童が多かったようです。一部ですが紹介させていただきます。



運動会　がんばったこと　5,6 年の児童アンケートより

＜運動会で一番がんばったこと・感じたこと＞

・カリスマックスの時に顔をしっかり上げるのを意識した。（6年）
・ソーラン節の声を出す時、さけぶんじゃなくて、はらから声を出す感じでやるといい声が出せる。（5年）
・ピストルでうつときに、「タイミングや声の大きさに気をつけながらする」というめあてを達成できた。（5年）
・放送で人の名前をよぶときに、間違えずに言うのが難しかった。（5年）
・ちゃんと「次は記録だな」と考えながら係の仕事ができた。（5年）
・6年生と仲を深められた気がします。（5年）
・6年生の姿を見て感じたことは、みんな色がちがっても仲よく楽しくしようとしていたことです。（5年）
・一人が何かを忘れてしまったら他の人全員こまると感じた。（5年）
・係の仕事をして、「今までの5，6年、ありがとう」と思った。（5年）
・自分が応援で声を出すことで、みんなも応援してくれるんだな、と思った。（6年）
・高学年としてみんなをまとめられたこと（6年）

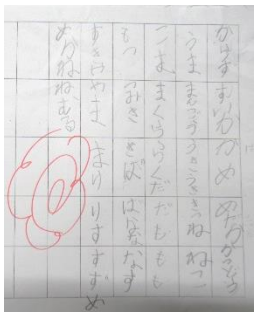
＜自分で成長したと思うこと＞

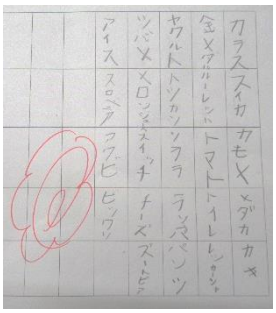
・きょ年ソーラン節を踊った時にくらべて、声が出ていたと思います。（5年）
・ソーランの最初の練習では声を出すのがはずかしかったけど、6年生を見て勇気をもらいました。（5年）
・今年ははじめて大きな声で、全力で声を出して応援できてすっきりしました。（5年）
・運動会で仕事をまかされたと思うこと。6年と仲よくなれたこと（5年）
・人の前に出て話すのが苦手だけど、全校の前で話せたこと。応援で大きな声を出せたこと。（5年）
・「自分からマイクに向かって言う」という行動が自分なりに成長したと思った。（6年）
・自分から立候補したこと！これからもまわりを気にせず自分から言いにいきたい（6年）
・次のことを考えて、す早く動けるようになったこと。（5年）
・あきらめないで何度も練習することができた。体を動かす楽しさや気持ちよさを感じられた。（6年）
・前より自信がついた（6年）

～ねっこタイムのがんばり　　しょうかいします！～（1，2年）

＜1年生　目指せ!平仮名・カタカナ博士!!＞

1年生では、平仮名やカタカナの学習が終わり、学習中も板書されたことを素早くノートに写したり学習のふりかえりをしたりと文字を書くことが増えてきました。そこでねっこタイムの時間を活用し、しりとりや言葉集めなどたくさん文字に触れる活動をしています。「今日はプリントの半分以上集められた!」「外国から来たものはカタカナだよ」など、子どもたち同士で競い合ったり教え合ったりする姿も見られ、扱える言葉の数も日に日に増えてきてきます。そして後期に入ってから週末に、「せんせいあのね」という日記の取組を始めました。まずは出来事を整理して伝えるということを目標にこれからも継続的に取り組んでいきます。







「いつ」「どこで」「だれと」「何をした」が、順番に正しくかけているか、たしかめながら書きます。

＜2年生　目指せ!自主学マスター!＞

2年生では、金曜日のねっこタイムを使って自主学習に取り組んでいます。最初はプリントを使って「ならったかん字をつかって文章をつくろう」や「算数のおはなし問題をつくろう」など、みんな同じ課題で取り組みました。回数を重ねてからは、今までやった中から課題を選ぶ、自分で取り組む課題を考える、と少しずつステップアップしています。後期に入ってからは、ノートで自主学習に挑戦しています。宿題でなくてもお家で取り組んだり、興味のあることについて自主学ノートを使って深めようとしたりしている姿が見られました。自分に必要な学習を自分でできるようになるための土台となるように、これからも継続して取り組んでいきます。







ちょっと情報

親の声かけで子どもの人生が決まる！（4）

今回も湖南市の教育アドバイザー庄子寛之氏の著書「自分で考えて学ぶ子に育つ声かけの正解」（ダイヤモンド社）から一部を紹介します。「声かけ」を真似して習慣化すれば「自分で考えて学ぶ子」に育ちます。という本書を参考に是非、おもしろがって自分の普段の声かけをふり返り、まねできそうなものは意識して習慣にしてみてください。

＜ポイント＞　結果よりも、挑戦に価値を見出す。

赤ちゃんは何回も何回も転んで立ち上がろうと挑戦します。失敗を繰り返すことは必要不可欠です。いい失敗にするには2つのことが大事です。①失敗をいい経験にする②親が小さな挑戦をして失敗を見せる

挑戦に失敗は避けられません。正しいやり方を教えるのではなく、親が一緒に小さな挑戦をすることをおすすめします。

例）失敗は誰にでもあるから大丈夫。次からは気をつけてね。

→→　失敗して分かったことは何？次からどんなことに気をつける？